

産業建設常任委員会調査報告書

1 調査事件

観光振興における地域資源のほりおこしについての検証（平成21年12月定例会で報告）

2 調査目的

本町の山、川、風、雪など、豊かな自然と名所旧跡、営々と築かれてきた歴史や文化、産業、優れた先人たち等を地域資源として捉え、それらを今一度ほりおこし、磨きあげ、観光交流人口を今後どのように拡大するかを調査し、平成21年12月定例会に委員会報告を提出した。その中の7つの意見について実施状況を検証することとした。

3 調査経過

平成24年3月16日（会期中）
平成24年3月28日 担当課からの聞き取り
平成24年4月12日
平成24年4月17日 担当課からの聞き取り
平成24年4月23日 北月山荘視察
平成24年5月8日
平成24年5月22日
平成24年5月28日
平成24年5月31日

4 検証結果

(1) 庄内町の魅力の創出と既存観光資源のアピールについて

〔前回の意見〕

庄内町の観光の魅力は何か、どこにあるのか地域資源を今一度掘りおこし、あるものを生かした新たな観光メニューの創出をはかるべきである。

具体的には

ア 庄内新潟デスティネーションキャンペーン事業で企画した街中散策、醤油屋、酒蔵見学、おいしい米と田舎お膳の食事、一店逸品参加店の組み込みで買い物、食事ができる探訪の旅は、あるものを生かしながらつくり上げた新たな観光メニューである。今後も定着させながら推進すべきであり、これらに更に米の町庄内町を代表するカントリーエレベーターを加え、米産業の巨大施設、その施設からの庄内平野の展望。そしてコシヒカリ、つや姫などのルーツとして「亀ノ尾」を育てた名高い育種家阿部亀治翁をはじめ、多くの育種家の偉業を紹介することで、庄内町産米のPRと観光の創出をはかるべきである。

また、水彩画界の巨匠内藤秀因記念館、環境の町の風車村施設、歴史の里・楯山公園・ホテルの里一帯などの庄内町独特の既存観光資源のアピールをはかり、これらを組み合わせ、新たな発想と整備を行い、他にない観光魅力の創出をはかるべき

である。

イ 立谷沢川流域は、平成の名水百選の自然豊かな川、四季折々魅力かなでる山、効能あたたかな湯宿、歴史や文化、伝説が息づいており、地域資源が数多くあることで庄内町観光のメインになり得る。

「最上川舟運」で賑わった清川地区には、多くの旅人とともに源義経、松尾芭蕉が訪れており、義経一行が一夜を明かした御諸皇子神社、明治維新の魁・清河八郎の清河八郎記念館と清河神社、戊辰戦争合戦の地としての御殿林など特色ある歴史・文化遺産がある。また、最上川、立谷沢川の合流点として古来よりヤツメウナギ漁、川ガニ漁、夏はアユの友釣りなどが行われ、川は豊かな命と心を育む原点となっている。一方、立谷沢地区は亀ノ尾発祥の地、由比正雪門下の熊谷三郎兵衛を祀る熊谷神社や、立谷沢川の水辺沿い、羽黒古道、北月山登山道などがあり、これらの自然条件、立地条件を生かしたトレッキングやジョギング、そして北月山荘、ケビン、ロッジ、鶴巻池とを結んだ健康づくりを目的としたフットパスの整備により、家族・グループの滞在型観光を目玉とした入り込み客数の増大をはかるべきである。

[検証の結果]

ア 庄内新潟ステーションキャンペーン事業は平成 21 年度で終了している。街中での観光振興に活用可能な地域資源を取り入れた誘客企画では、JR 東日本の「駅からハイキング」に企画提案し、平成 23 年 9 月 15 日「余目まつり見物と庄内町ゆかりのミュージアムを歩く」に 36 名、11 月 26 日「日本一おいしい米コンテスト見物と余目駅周辺米倉庫めぐり」に 50 名の参加があった。平成 24 年 6 月 15 日には「朝丸民俗芸能見物とカントリーエレベーター見学」に定員 50 名の参加を予定している。

また、陸羽東西線利用推進協議会事業では平成 24 年 1 月 15 日の「やや祭り見学ツアー」に 45 名の参加があった。

テレビ放映された槇島ほうきプロジェクトについても、平成 21 年結成された手作りの会による「ほうきものがたり」が企画され、平成 23 年 6 月 4 日ほうききびの苗植えに 19 名、8 月 27 日ほうききびの収穫に 21 名、10 月 29 日のほうき作り体験には 22 名の参加があった。平成 24 年度には槇島ほうき応援隊の結成と輸入雑貨店での販売等が予定されており、新たな地域資源の掘り起こし例として注目されている。

イ 立谷沢川流域では「庄内まるごとトレッキング」が企画開催され、平成 23 年 10 月 22 日北月山登山道コースに 35 名、一週間後の 29 日羽黒古道コースに 30 名の参加があった。

平成 23 年夏季に日帰りで 4 回開催された「月山卯歳御縁年登山参拝ツアー」は、北月山荘の利用とセットで企画され延べ 83 名の参加があった。

清河八郎生誕 180 年、没後 150 年記念事業として平成 23 年 5 月 7～8 日に行われた回天の道文学散歩の道「観桜会」には、一泊二日で 15 名、日帰りで 11 名の参加があり、10 月 23 日の「回天の道アドベンチャーラン」には 19 名のエントリーがあった。「回天の道文学散歩の道」「回天の道アドベンチャーラン」は平成 24 年度

も開催の予定である。

以上のように、[前回の意見]にある観光資源と成り得る地域資源を取り入れた観光企画が提案され、活用が見られる。

今後も観光資源と成り得る地域資源の掘り起こしを考慮に入れ、観光誘客メニューの創出に努めるべきである。

また、平成 20～24 年度までの観光振興計画では入り込み客数 50 万人を目標としているが、庄内町観光施設等入込客数 平成 21・22・23 年度（別紙資料参照）によると、客数は伸びていない状況にあり、その要因の把握と分析、対策が必要と思われる。また、イメージ戦略としてのキャラクターやロゴマークの導入も進んでいない。これらも考慮に入れながら、次期計画策定にあたっては検証し計画すべきである。

(2) ガイド育成、リーダー、スタッフの発掘について

[前回の意見]

町内の観光地を案内するには、ガイドの育成が必要不可欠である。ガイドの説明があることにより観光地が理解され旅行の楽しみが膨らみ、町の印象も格段に違ってくる。町も観光協会の育成事業とタイアップし、町民に広くガイド講座等を開催し醸成をはかるべきである。そのためには、地元民や歴史研究家などからの協力を得て、育成していくべきである。

交流人口の増加をはかるには、イベントの実施がかかせないが、そのリーダー、スタッフになる人の発掘が課題である。町おこしのためには何があるか、町民に広く意見を問うて、アイデア募集など行い、町がきっかけづくりをし、イベント等のプロジェクトには住民が直接関わったものにして、その中でリーダー、スタッフの発掘と支援を行っていくべきである。

[検証の結果]

本町の観光ガイドの平成 23 年度活動状況は、羽黒山修験道を守る会（会員 14 名）が 203 人の方へガイド案内を行い、また、余目街なか観光ボランティアガイド研修が 10 月から 3 月にかけて 6 回開催され、延べ 110 名の参加があった。平成 24 年度からは会員 16 名により余目観光ガイドの会を発足し、実習等を踏まえ具体的な受け入れを図るなど活動を広げていく予定としている。

きよかわ観光ガイドの会（会員 7 名）は平成 21 年 12 月発足しており、清川歴史の里のガイドを実施している。

今後もガイドの会相互の情報の共有を図ると共に協議会を発足するなどし、連携を密にして活動できる環境を構築すべきである。

リーダー、スタッフの発掘については、平成 21 年度から 3 回、北月山荘周辺で地元リーダー、スタッフが中心になり地元の人達の協力を得てスノーアートフェスティバルを開催し、遠方からの参加者もあり好評を博した。今後も各種イベント開催の折にはスタッフ、協力者等を町民から広く募り裾野を広げ育成すべきであり、時には各種イベントスタッフ、協力者等を集め研修会を開催しレベルアップを図るべきである。

(3) インフォメーションの整備と拡大について

[前回の意見]

- ア 町外からの入り込み客の情報収集の手段は、インターネットが大きな役割を果たしている。パンフレット等ペーパー媒体では地域、時間、コストに限界があり、誘客には日本全国広範囲に発信する必要があることから、庄内町観光のホームページも遅滞することなく、観光情報をリアルタイムで発信できる体制にすべきであり、県内トップのアクセスがある「んだ！」ブログも活用すべきである。
- イ 観光受付、案内などの窓口は、観光協会、町、商工会それぞれでなく観光協会にワンストップをはかるべきである。
- ウ 名所旧跡の案内看板（駅周辺に観光案内図の設置など）も早期に整備すべきである。

[検証の結果]

- ア インターネットの活用では、観光専門員が担当したブログ「庄内大好き」による情報発信を行いとても好評であった。
 - 町のホームページからも庄内町観光情報にリンクでき、アクセスしやすい状況となっているなど、観光サイトの内容も整備している。
 - 今後も観光サイトの内容はリアルタイムでの発信を心がけ、充実すべきである。
- イ 現在計画中的の新産業創造館に観光協会が運営する観光インフォメーションコーナーを整備し、観光案内を一本化したワンストップサービスを計画している。また、平成24年度には余目駅前に観光レンタサイクル6台を設置し、街中回遊ルートや見どころ、所要時間を掲載した観光ルートマップを自転車に配備し、利用促進を目指している。
- ウ 清川地区には、水辺の楽校事業による清川歴史の里観光案内看板（4箇所）を設置している。また、余目駅前に亀ノ尾の発祥の地をPRした広告塔を新たに整備したほか、月の沢温泉北月山荘や立谷沢川流域の各施設の案内看板も整備している。しかし、より目に付く表示板にするためには、文字の大きさや字数、設置場所や取り付けた向きの検証を行うべきである。

今後は、普及がめざましいカーナビや携帯電話の地図検索システムにも対応できるよう、地図情報の提供を図るべきである。

(4) 観光協会について

[前回の意見]

庄内町の観光事業はほとんどが観光協会に委ねており、業務は商工観光課と商工会の職員が行っている。今後、観光客や交流人口拡大のためには、観光協会は、宿泊や食事などの斡旋、滞在型旅行など自ら行える体制を整える必要がある。また、各種イベントの開催やグリーンツーリズムなどには営業活動が欠かせないなど業務が益々多様化、専門化していく。そのためには、専門職として観光振興コーディネーターを配置し組織体制の強化と予算措置を講ずるべきである。

[検証の結果]

平成 22 年度にスタートした庄内町観光開発育成事業で、観光専門員、観光コーディネーターを配置し、各種誘客事業の開催、グリーンツーリズムの推進、教育旅行推進事業、ブログ「庄内大好き」を中心とした情報発信、槇島ほうきの「ほうきものがたり」の企画、JR 駅からハイキングなど、町に来て滞在し、色々な体験をしながら時間を過ごす着地型旅行の企画につながった。

このように、観光専門員、観光コーディネーターは本町の観光振興にとって重要な役割を果たしている。しかし、重要な役割であるにもかかわらずその位置付けが確立されていない。今後も継続配置を含め、雇用条件の整備を図るべきである。

(5) グリーンツーリズムについて

[前回の意見]

農村の自然、文化、人々との交流、農業体験などを求め都市部から小学、中学、高校生の教育旅行が全国的に増大しており、本町にも 2 年前から 2 組織が中心になり「身の丈の実践」の受け入れで好評を得ている。また、町の子供も含め他地域に体験研修させることによって、保護者、地域の理解も得られると考える。

今後交流人口の拡大をはかることから受け入れ体制の整備が必要であり、観光協会と町が両輪となり推進すべきである。受け入れ窓口、事務局は観光協会が担い顧客の利便性や、情報管理の一元化をする必要がある。

特に、受け入れ戸数の拡大、育成については、町民に対しグリーンツーリズムへの参加気運の醸成、受け入れ組織の結成、家族の理解、採算性、体験メニューなど喫緊の課題が多くあり、町、観光協会の強力な支援が不可欠である。

[検証の結果]

自然体験プログラムの企画・受け入れを実施する庄内町グリーンツーリズムの会では、平成 23 年 11 月 25 日、24 年 2 月 2 日にそれぞれ 15 名が参加して地産地消料理講習会を開催し、受け入れ先が悩む、参加者に提供する食事メニューの開発に役立った。平成 23 年度、教育旅行民泊受入のグリーンツーリズム教育旅行等実行委員会では 5 月 18～19 日に多賀城第二中 145 名、9 月 7～8 日に東北高校 79 名を受け入れ、観光協会でも 5 月 11～13 日に仙台第二中 79 名を受け入れている。これら 3 校の受け入れには、かあちゃんのお宿組清川の会など町内の多くの一般家庭から受け入れ協力があった。

この事業については一定の評価はできるものの、周年を通しての受け入れやより多くの人に対応するためには、宿泊と農業体験を別々の家庭で引き受けることも視野に入れ、体験メニューを増やす必要がある。

なお、組織の一本化を図るため庄内町グリーンツーリズム関係者会議を平成 23 年 7 月から 12 月にかけて 4 回開催しているが、まだ結論には至っていない。今後も一本化に向けて努力すべきである。また、[前回の意見]にもあるように、受け入れ組織の連携や受け入れ家庭の拡大が不可欠であり、そのためにも受け入れるメリットを説明するなど参加機運を高めると共に、組織の拡大、受け入れ回数の増加を図り、今まで以上に町や観光協会が営業マンの役割を担うことが求められる。

(6) 北月山荘の滞在型受け入れ整備と既存宿泊施設の利用拡大について

[前回の意見]

現在の利用客の反応をみると自然、歴史、文化の良さと自由に手作りで宿泊できること、格安であることが魅力で、県外からもリピーターが増大している。この考えを継続しながらも顧客の要望に応じ、より受け入れ体制を整備し、利用客の増大をはかる必要がある。

たとえば、食事については地元特産品のメニューを提供し、地元の産業振興と繋がるようにすべきであり、その良さを四季ごとにリアルタイムに情報発信すべきである。また、調理場の改修、電話への対応、施設運営管理体制などの整備が急務である。将来的には民間の経営も視野に置いて考えるべきであり、そのためには収支の改善をはかる必要がある。

庄内町の旅館を利用してもらうには、観光協会、観光旅行者、庄内新潟ゲストエーションキャンペーン事業などとの連携を密にし、庄内町の良さ、庄内町の魅力を創出した滞在型のコースを入れてもらうなどの働きかけをし、宿泊客の増大に積極的に取り組むべきである。

[検証の結果]

平成 22 年から北月山荘で始まったやまぶどうの会による地元産の旬な田舎料理を提供する仕組みは好評で、現在もほぼ毎日対応している。また、北月山荘は月山登山のベースキャンプ基地として県外の利用者も増えており、お弁当に持たせたおにぎりが喜ばれるなど、リピーターの確保を図っている。

平成 23 年度 2 回行われ 74 名が利用した「南三陸町温泉で元気になろうツアー」（2泊3日）では、湯の浜温泉での一泊も組み込んだが、北月山荘のアットホームなもてなしが喜ばれたので、平成 24 年度 3 回予定されているツアーでは 2 泊とも北月山荘への宿泊を計画している。

その他、地元の山菜や野菜を販売する北月山荘軽トラ市場が 4 回行われた。北月山荘利用促進では、キハダの湯、入浴・休憩を 500 円でセットした日帰り湯治プラン、冬の連泊プラン（3泊4日、15,000 円）、日本海ひな街道とタイアップしたひな御膳（2月4日～4月5日）を提供している。また、北月山荘を核とし雪と触れ合い地域住民と交流することと、新たな体験プログラムの整備を目的とする「ANA冬を遊ぼうツアー」では、平成 24 年 1 月 20～22 日に 11 名、2 月 24～26 日に 16 名が参加し、雪遊び、カンジキ作りなどを楽しんだ。

現在、利用拡大やお客様の満足度を上げていくためには、施設の改修が課題となっているが、「再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援基金事業」などを活用し、風呂や暖房用ボイラー改修、トイレの男女別化、食堂・売店の拡張などを計画している。また、月の沢温泉北月山荘の PR パンフレットについて予算化した。

今後は、指定管理者の導入を視野に入れ、風呂としての魅力、景観を生かした周辺環境の整備、手狭な休憩室の拡張などを含めた、北月山荘改修計画のプランを早期に提示し施設の改修に取り組むべきである。また、案内表示板の充実が図られたが、より目に付く表示板にするために、文字の大きさや字数、設置場所や取り付けの向きの検証を行うべきである。

(7) 物産品（土産品）の開発と名産を味わう場面づくりについて

[前回の意見]

ア 既存の一店逸品運動と「まあ～ずのめっちゃ・まあ～ずたべっちゃ」「まあ～ずよてくっちゃ」の飲食店の誘客キャッチフレーズは全国に発信され、他からのリピーターも少しずつ増えており効果がでてきている。運動の特性を生かすと共に更に強化し、町の特産品としてPRしていくべきである。観光客には店で名産を味わう場面づくりを企画すべきである。たとえば、加盟店に内藤秀因画伯の絵の写真と庄内町の風土写真などシリーズにして展示することで、庄内町の情緒を醸し出し今以上の誘客に繋がるのではないかと思われる。

イ 全国から集まる町の「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」に米や地元産食材を使ったアイデア料理コンクールなどを組み入れ、特産品開発のきっかけ作りを考慮すべきである。

[検証の結果]

ア 平成 21 年度、庄内町味わい手帖「えっぺ食えの～」を発行した。また、平成 23 年度から庄内町商工会ハッピーシール部会では、内藤秀因画伯の絵の写真を加盟店内に展示している。平成 24 年度は、飲食店めぐりのパスポート事業（仮称、たべぶら）による商店街活性化と観光PRを推進するため、「食」を活用した賑わい創出事業（商工会委託事業）を計画している。また、平成 21 年度から白金七夕まつりや港区商店街と地方都市との交流物産展に参加し、首都圏への特産品PRや交流を図っている。

一店逸品運動も 7 年目を迎えているので、これまでの総括も含め、ヒット商品を再案内するイベントを開催するなど誘客を図る工夫も必要である。

イ 「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」では、つや姫、コシヒカリのおにぎりや、地域の消費生活団体連絡協議会が、地元の食材を使った伝統料理を無償で提供するなど好評である。特産品開発では、庄内町特産品等販売促進支援事業として、(株)イグゼあまるめ結プロジェクトのお結び煎餅、お結びストラップ、おかゆぼん煎、胸キュン酒などに支援している。

今後も地元の素材を活用して、地元の企業が連携し特産品開発に取り組むことが望まれる。

庄内町観光施設等入込数(H21・22)

(人)

資料1

分類	名称	H21入込数	H22入込数	H22-H21	H22/21増加率
名所・旧跡	白狐山光星寺	3,885	2,908	△ 977	-25.0%
	楯山公園	6,743	5,962	△ 781	-12.0%
	熊谷神社	2,373	2,597	224	9.0%
	清河神社	1,749	1,606	△ 143	-8.0%
	余目八幡神社	20,000	20,000	0	0.0%
	北館神社	1,000	1,400	400	40.0%
	歓喜寺	650	700	50	8.0%
	御諸皇子神社	400	400	0	0.0%
	熊野神社(ナツジャモンジャの木)	300	300	0	0.0%
	霊輝院(三ヶ沢の乳イチョウ)	100	100	0	0.0%
	計	37,200	35,973	△ 1,227	-4.0%
美術館・資料館等	響ホール	40,520	32,602	△ 7,918	-20.0%
	亀ノ尾の里資料館	1,806	2,701	895	50.0%
	歴史民俗資料館	6,743	1,565	△ 5,178	-77.0%
	清河八郎記念館	1,794	1,606	△ 188	-10.0%
	内藤秀因水彩画記念館	4,856	4,526	△ 330	-7.0%
	砂防資料館	143	48	△ 95	-66.0%
	耐雪書道美術館	250	100	△ 150	-60.0%
	計	56,112	43,148	△ 12,964	-22.0%
体験・レジャー	風車村	33,527	27,505	△ 6,022	-18.0%
	庄内ゴルフ倶楽部	22,246	21,572	△ 674	-3.0%
	北月山荘	17,343	17,000	△ 343	-2.0%
	農林漁業体験実習館	4,175	1,332	△ 2,843	-68.0%
	大中島自然ふれあい館 森森	3,360	3,074	△ 286	-9.0%
	カートソレイユ最上川	2,789	3,266	477	17.0%
	セフティパーク最上川	1,300	1,000	△ 300	-23.0%
	ダチョウ広場	3,600	3,600	0	0.0%
	北月山ケビン	48	39	△ 9	-19.0%
北月山キャンプ場	369	79	△ 290	-79.0%	
	計	88,757	78,467	△ 10,290	-11.0%
産直施設等	あまるめホットとホーム	34,557	31,959	△ 2,598	-8.0%
	風車市場	11,551	14,880	3,329	29.0%
	安心市場	1,740	1,700	△ 40	-2.0%
	駅前ふれあい朝市	1,100	1,300	200	18.0%
	やまゆり市場	360	360	0	0.0%
	ちやりんこ100円ショップ	1,220	1,300	80	7.0%
	やまぶどう(北月山荘)		5,876	5,876	#DIV/0!
	計	50,528	57,375	6,847	12.0%
祭り・イベント	植木金魚まつり	20,000	18,000	△ 2,000	-10.0%
	余目まつり	15,000	14,500	△ 500	-3.0%
	あまるめ秋まつり	11,000	12,000	1,000	9.0%
	夏宵まつり	7,000	2,500	△ 4,500	-64.0%
	ラベンダーまつり	5,400	3,246	△ 2,154	-40.0%
	たちかわ秋まつり	4,000	4,500	500	13.0%
	楯山公園桜まつり	6,000	3,000	△ 3,000	-50.0%
	ペガ月山	2,000	2,000	0	0.0%
	最上川感謝祭(最上川立谷沢夏まつり)	2,100	1,828	△ 272	-13.0%
	ややまつり	1,000	1,000	0	0.0%
	キャンドルナイトinしょうない	500	500	0	0.0%
	電動カートコンテスト	114	102	△ 12	-11.0%
	宮城県多賀城二中 農業体験	123	141	18	15.0%
	宮城県東北高校 農業体験	34	40	6	18.0%
	大阪府大手前高校 農業体験	55	0	△ 55	-100.0%
	グリーンツーリズムの会 体験ツアー	12	70	58	483.0%
	スノーアートフェスティバル	550	1,000	450	82.0%
	首都圏シルバー交流事業	10	11	1	10.0%
	エコツアー	18	0	△ 18	-100.0%
	庄内国際ギターフェスティバル	0	1,450	1,450	#DIV/0!
	立谷沢川流域交流事業	2,662	3,908	1,246	47.0%
	JICA農業研修	25	11	△ 14	-56.0%
	日本一おいしい米コンテスト決勝大会	1,000	1,000	0	0.0%
一店逸品体験ツアー	36	70	34	94.0%	
庄内新潟DCおいしい米の里をゆくツアー	7	0	△ 7	-100.0%	
平成興の細道ウォーキング	0	600	600	#DIV/0!	
	計	78,646	71,477	△ 7,169	-10.0%
宿泊施設	余目ホテル				
	民宿ふじ				
	民宿ふきのとう				
	長村旅館				
	ビジネスホテル泉	5,804	5,641	△ 163	-3.0%
	北月山荘				
平成館					
民宿源助					
	合計	317,047	292,081	△ 24,966	-8.0%

庄内町観光施設等入込数(H22-23)

(人)

資料2

分類	名称	H22入込数	H23入込数	H23-H22	H23/22増加率
名所・旧跡	白狐山光星寺	2,908	3,324	416	14.0%
	楯山公園	5,962	4,514	△ 1,448	-24.0%
	熊谷神社	2,597	3,184	587	23.0%
	清河神社	1,606	1,817	211	13.0%
	余目八幡神社	20,000	20,000	0	0.0%
	北館神社	1,400	1,550	150	11.0%
	歓喜寺	700	700	0	0.0%
	御諸皇子神社	400	400	0	0.0%
	熊野神社	300	300	0	0.0%
	靈輝院(三ヶ沢の乳イチョウ)	100	100	0	0.0%
	計	35,973	35,889	△ 84	0.0%
美術館・資料館等	響ホール	32,602	36,278	3,676	11.0%
	亀ノ尾の里資料館	2,701	2,185	△ 516	-19.0%
	歴史民俗資料館	1,565	808	△ 757	-48.0%
	清河八郎記念館	1,606	1,817	211	13.0%
	内藤秀因水彩画記念館	4,526	6,283	1,757	39.0%
	砂防資料館	48	40	△ 8	-17.0%
	耐雪書道美術館	100	32	△ 68	-68.0%
	計	43,148	47,443	4,295	10.0%
体験・レジャー	風車村	27,505	30,898	3,393	12.0%
	庄内ゴルフ倶楽部	21,572	21,523	△ 49	0.0%
	北月山荘	17,000	16,973	△ 27	0.0%
	農林漁業体験実習館	1,332	1,423	91	7.0%
	大中島自然ふれあい館 森森	3,074	4,214	1,140	37.0%
	カートソレイユ最上川	3,266	3,472	206	6.0%
	セフティパーク最上川	1,000	500	△ 500	-50.0%
	ダチョウ広場	3,600	6,000	2,400	67.0%
	北月山ケビン	39	57	18	46.0%
	北月山キャンプ場	79	79	0	0.0%
		計	78,467	85,139	6,672
産直施設等	あまるめホツとホーム	31,959	31,501	△ 458	-1.0%
	風車市場	14,880	19,037	4,157	28.0%
	安心市場	1,700	2,000	300	18.0%
	駅前ふれあい朝市	1,300	1,300	0	0.0%
	やまゆり市場	360	360	0	0.0%
	ちゃりんこ100円ショップ	1,300	1,000	△ 300	-23.0%
	やまぶどう(北月山荘)	5,876	10,698	4,822	82.0%
	計	57,375	65,896	8,521	15.0%
祭り・イベント	植木金魚まつり	18,000	17,000	△ 1,000	-6.0%
	余目まつり	14,500	14,500	0	0.0%
	あまるめ秋まつり	12,000	13,000	1,000	8.0%
	夏宵まつり	2,500	8,000	5,500	220.0%
	ラベンダーまつり	3,246	3,193	△ 53	-2.0%
	たちかわ秋まつり	4,500	4,500	0	0.0%
	楯山公園桜まつり	3,000	0	△ 3,000	-100.0%
	龍神月山	2,000	2,000	0	0.0%
	最上川感謝祭(最上川立谷沢夏まつり)	1,828	2,383	555	30.0%
	やまつり	1,000	1,000	0	0.0%
	キャンドルナイトinしょうない	500	337	△ 163	-33.0%
	電動カートコンテスト	102	102	0	0.0%
	宮城県多賀城二中 教育旅行(農業体験)	141	141	0	0.0%
	宮城県東北高枝 教育旅行(農業体験)	40	70	30	75.0%
	宮城県仙台二中 教育旅行(農業体験)		79	79	#DIV/0!
	グリーンツーリズムの会 体験ツアー	70	30	△ 40	-57.0%
	スノーアートフェスティバル	1,000	1,000	0	0.0%
	首都圏シルバー交流事業	11	0	△ 11	-100.0%
	エコツアー(環境塾)	0	45	45	#DIV/0!
	庄内国際ギターフェスティバル	1,450	0	△ 1,450	-100.0%
	立谷沢川流域交流事業	3,908	3,998	90	2.0%
	JICA農業研修	11	15	4	36.0%
	日本一おいしい米コンテスト決勝大会	1,000	1,300	300	30.0%
	一店逸品体験ツアー	70	110	40	57.0%
	平成奥の細道ウォーキング	600	0	△ 600	-100.0%
	がんばろう南三陸町温泉で元気になるツアー		74	74	#DIV/0!
	禰島ほうきものがたり		62	62	#DIV/0!
	JR東日本駅からハイキング		86	86	#DIV/0!
	冬を遊ぶツアー		27	27	#DIV/0!
	やや祭り見学の旅		45	45	#DIV/0!
余目街なか観光ボランティアガイド研修		110	110	#DIV/0!	
	計	71,477	73,207	1,730	2.0%
宿泊施設	余目ホテル				
	民宿ふじ				
	民宿ふきのとう				
	長村旅館				
	ビジネスホテル泉	5,641	5,888	247	4.0%
	北月山荘				
平成館					
民宿源助					
合計		292,081	313,462	21,381	7.0%

《参考》

H19入込数	H20入込数	H21入込数
295,000	319,239	317,047

産業建設常任委員会調査報告書

1 調査事件

農業振興についての検証（平成 23 年 3 月定例会で報告）

2 調査目的

稲作を中心としてきた本町の農業経営は、従事者の高齢化・後継者不足により農家数も減少し、また、米価の下落もありその厳しさを増している。実りある農業経営を実現するため、農業の現状を踏まえ、施策の検証を行い、今後の農業振興のあり方について農家所得の向上を目指して調査し、平成 23 年 3 月定例会に委員会報告を提出した。その中の 4 つの意見についての実施状況を検証することとした。

3 調査経過

平成 24 年 3 月 16 日（会期中）
平成 24 年 3 月 28 日
平成 24 年 4 月 12 日
平成 24 年 4 月 17 日 担当課からの聞き取り
平成 24 年 4 月 23 日
平成 24 年 5 月 8 日
平成 24 年 5 月 22 日
平成 24 年 5 月 28 日
平成 24 年 5 月 31 日

4 検証結果

(1) 複合経営の充実・強化

稲作中心からの転換（所得向上に向けた複合経営のあり方、方向性）について
[前回の意見]

ア 平成 23 年度から本格実施予定の戸別所得補償制度については、その内容把握と理解を深められるように十分な説明を行い、所得向上に繋がる意識改革を進める必要がある。

イ 「つや姫」を中心として、将来的な産地間競争に向け、スペシャルコシヒカリ栽培マニュアルを活かした庄内町としての独自ブランド化、販売戦略の充実、作付け誘導・拡大を押し進めるべきである。

ウ 規模拡大は重要であるが、経営の効率化を進めるためには、個々に合った適正規模や農業機械の有効利用などを進め、農地の集積、作業委託などによる効率化、生産コストの低減を図るべきである。

エ 農業所得の向上に繋がる転作大豆の収量増収を実現するため、プロジェクトチームによる栽培マニュアルを確立すると共に、団地化の推進や排水対策支援を行うべきである。

オ 地域振興作物、重点振興作物に加え、新規作物を導入した産地化を推進するため、町として専門的な指導者を配置し、きめ細かな支援体制を構築すべきである。

カ 花き生産では、販売数量は増加しているものの販売金額は減少している。より収益性の高い品種へ転換すべきである。

[検証の結果]

ア 国の戸別所得補償制度は平成 22 年度から米を対象に実施され、23 年度からは畑作物にも拡大した内容となっており、各集落の農業生産委員を通して内容説明と情報提供に努めている。また、県、町の各種助成制度を活用した取組みも増加しており、所得向上に向けた意識改革が拡がりを見せている。

しかし、農家の経営は依然として厳しい状況が続いており、競争力のある経営体の育成、より所得率の高い品目の導入など、経営改善に向けた J A 等の関係機関との協議を、さらに重ねる必要がある。

イ 県が進めている「つや姫」を、庄内町の魅力にどう繋げていくべきか検討するため、平成 24 年 1 月 27 日「おいしい米づくり推進委員会」を開催している。協議の中では、販売戦略としての「つや姫」の重要性を再確認するとともに、町としての関わり方についても意見交換し、継続的に協議を進めるため、24 年度も委員会開催を 2 回予定している。

全国各地で新品種が誕生するなど、厳しい産地間競争が展開されるなか、庄内町として「つや姫」を中心とした販売戦略を構築するためには、23 年度の経験を基に、県の指針をふまえた、より地域に適した栽培技術を確立することが重要であり、スペシャルコシヒカリ栽培マニュアルなど、蓄積された財産の活用を図るべきである。

ウ 農地集積協力金、青年新規就農者への支援など、国では、平成 24 年度から新たな事業「人・農地プラン」が導入された。この制度に対応するため、町では 23 年度中に集落毎の説明会を開催するなど、近隣市町村に先んじた取組みが行われた。

しかし、新たな取組みのため、個々の農家の理解が十分でないことも事実であり、経営の効率化や生産コストの低減を図るため、さらにきめ細かな情報提供に努めるべきである。

エ 平成 24 年産米の需要量配分より、山形県では新たな算定方法を導入している。これにより、町では平成 28 年度までに 297ha の作付面積が削減される見込みとなっていることから、再生戦略を平成 24 年度前半に策定することとして、平成 24 年 3 月 28 日農業再生協議会事務局員会議で検討を開始した。

排水対策では県の水田畑地化対策（一期対策*平成 13～22 年度）に続き、二期対策*（平成 23～27 年度）が始まっており 5 地区を予定している。

転作大豆の増収には新品種（里のほほえみ*）を前田野目集落に 10ha 作付を計画している。

さらなる増収を実現するために技術面（栽培マニュアル）の強化を図るべきである。

※一期対策 添津 23.9ha 荒鍋 21.6ha 大野 29.9ha 久田 1.8ha

※二期対策（予定） 三ヶ沢 20ha 中島・生繰沢 10ha 島田 6ha 廿六木 20ha
表町・仲町・御殿町 20ha

※里のほほえみ 平成 22 年度に普及。大粒で収量性が高く晩成の大豆新奨励品種

オ 地域振興作物、重点振興作物に加え、新規作物を導入した産地化を推進するため、ハウス団地構想を計画している。また、専門的な指導者を配置し、きめ細やかな支援体制を図るために、平成 24 年度から花き生産振興アドバイザーの配置を予定している。

カ 花き生産における新品種の導入では、トルコギキョウ約 20～30%、スプレー菊約 50%が行われている。ストックは、品種が確立していることからほとんど変わらない状況である。トルコギキョウ、スプレー菊では、より収益性を求めて毎年新品種を導入し消費者ニーズを探索している。

平成 24 年 1 月 20 日の第 2 種苗センター増設工事完成に伴い、供給量の増加が図られている。また、トルコギキョウのロゼット*対策として種子冷庫（15 坪×2）を整備している。平成 24 年度の苗の申し込み状況（4 月現在）を見ると従来の高齢化、後継者不足、新規就農、規模拡大の課題に加え、大雪によるハウス倒壊に 4 月の爆弾低気圧による倒壊が重なり下降傾向にある。

花き振興会でニーズ調査を実施し、倍増計画、目標達成を図るべきである。

※ロゼット 地表に葉を平らに並べた植物の状態を表す。種苗センターではトルコギキョウの生理状態が高温によりロゼットになることから、は種して水かけ後 10℃で 3～4 週間冷やしている。

(2) 6 次産業化の推進について

[前回の意見]

ア 農産物価格の低迷が続くなか、生産のみならず加工販売まで含めた 6 次産業化の推進

(ア) 加工直売等に取り組む人を増やすために、県での創意工夫プロジェクト事業や、農商工ファンドなどの事業の PR に努めると共に、相談窓口の開設を検討すべきである。

(イ) 本町は付加価値を高めるための加工の取り組みが遅れている。町として加工所整備に向けての調査をすべきである。

イ 農産物直売所「風車市場」の経営改善

(ア) 平成 22 年 10 月 25 日より配置した総括マネージャーを中心に、22 年 12 月に策定した農産物直売所「風車市場」経営計画を基に経営改善に取り組んでいるが、会員拡大などそれぞれの目標が早期に達成できるよう努力すべきである。

(イ) 本町に農家レストランがないことから、地元産食材を活用した例えば「もちレストラン」のような米加工品の販売をするなど、利用者のニーズに合わせて施設内の食堂をリニューアルすべきである。

[検証の結果]

ア 計画中の新産業創造館の 6 次産業化工房、共同利用設備等については、情報提供と利用推奨に努めており、平成 24 年度は 6 次産業化ビジネスセミナー、加工特産品製造実習セミナーを計画している。

工房、共同利用施設については利用側のニーズにそった内容で整備すべきである。

イ 平成 20 年 4 月に指定管理者制度に移行し、平成 22 年 12 月に策定した農産物直売所「風車市場」経営計画を基に経営の建て直しに取り組んでいる。その結果、取り扱いアイテム、組合員数も 37 人に増え、売り上げも 24%伸びた。しかし、目標に達成しない部門もあり引き続き目標達成に向け努力すべきである。また、施設内の食堂については加工組合「風車」に検討を依頼しているが手付かずで、地場産の食材を使ったメニューを作るなど、誘客につなげる施策としてイートイン※なども考慮に入れ取り組むべきである。

なお、平成 24 年度は 6 次産業化支援員を配置し、加工品開発、販路拡大など 6 次産業化支援事業が予定されている。

※イートイン 店舗内に設けた飲食コーナー。店で購入した商品をそのまま飲食でき、簡単な軽食を取ることでできる便利なスペース。

(3) グリーン・ツーリズムの推進

所得向上も視野に入れた農村と都市との交流、体験型農業の推進について

[前回の意見]

ア グリーン・ツーリズム教育旅行等実行委員会と庄内町観光協会は早期に統合を図るべきである。

イ 受け入れ農家の拡大と組織強化を早急に図るべきである。そのためには、意識改革に取り組むことが重要であり、これまで以上に周知活動に力を入れるべきである。また、地域特徴を活かしたメニューの開発など、より農家が受け入れしやすい環境を作るべきである。

ウ 平成 21 年 12 月定例議会でグリーン・ツーリズムについて「今後交流人口の拡大をはかることから受け入れ体制の整備が必要であり、観光協会と町が両輪となり推進すべきである。受け入れ窓口、事務局は観光協会が担い、顧客の利便性や情報管理の一元化をする必要がある」と提言している。引き続き観光コーディネーター、観光専門員を中心とした推進を図るべきである。

[検証の結果]

ア 町を中心に組織の一本化を図るため、庄内町グリーンツーリズム関係者会議を平成 23 年 7 月から 12 月にかけて 4 回開催しているが、まだ結論には至っていない。

イ 自然体験プログラムの企画・受け入れを実施する庄内町グリーンツーリズムの会では、平成 23 年 11 月 25 日、平成 24 年 2 月 2 日にそれぞれ 15 名が参加して地産地消料理講習会を開催し、受け入れ先が悩む参加者に提供する食事メニューの開発に役立った。

ウ 平成 23 年度、教育旅行民泊受入のグリーンツーリズム教育旅行等実行委員会では 5 月 18～19 日に多賀城第二中 145 名、9 月 7～8 日に東北高校 79 名を受け入れ、観光協会でも観光専門員を中心として 5 月 11～13 日に仙台第二中 79 名を受け入れている。これら 3 校の受け入れには、かあちゃんのお宿組清川の会など、町内の多くの一般家庭から受け入れ協力があつた。

この事業については一定の評価はできるものの、周年を通してより多くの人を受け入れるためには、宿泊と農業体験を別々の家庭で引き受けることも視野に入れ、体験メニューを増やす必要がある。

なお、組織の一本化については未だ結論には至っていない。今後も一本化に向けて努力すべきである。また、[前回の意見]にもあるように、受け入れ組織の連携や受け入れ家庭の拡大が不可欠であり、そのためにも受け入れるメリットを説明するなど、参加機運を高めると共に組織の拡大、受け入れ回数の増加を図り、今まで以上に町や観光協会が営業マンの役割を担うことが求められる。

(4) 本町の農業施策に関連する主な事業の拡充について

[前回の意見]

- ア 「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」では、スペシャルコシヒカリの栽培マニュアルと比較できる、詳細な情報の提示を求めるべきである。
- イ 農地・水・環境保全向上対策事業は平成 23 年度で最終年度となっている。交付金を有効に活用するため、主要事業は秋まで終了できるように町で丁寧な指導をすべきである。
- ウ 堆肥生産センターは老朽化の対応と合わせ、施設の拡充を図るべきである。
- エ 町長が提唱している「ハウス団地構想」の具現化を図るべきである。
- オ 23 年度導入予定である「戸別所得補償制度」の「産地資金」については、国の動向を見据え、「花」を重視した取り組みなど、町の特性を活かした内容にすべきである。
- カ 「庄内町野菜等価格安定化対策事業」は保証基準価格が低いため、活用されにくい。保証基準価格を見直すべきである。

[検証の結果]

- ア 県、大学、研究機関と連携して相談しており、多くのアドバイスを受けているが今後もさらに情報提示を求めていくことにしている。

町として米の栽培マニュアルに関しては日常的な栽培とどう結びつけていくか詳細な情報を提示していくべきである。栽培履歴については徐々に公開されてきているが、公開されているものでは不十分である。コンテスト上位者のより詳細な情報を求めるべきである。

- イ 農地・水・環境保全向上対策事業については、平成 23 年秋までに主要事業を終了できるようヒヤリングを行い指導したが多額の交付金が残った。

この事は重く受け取るべきであり、平成 24 年度からも第二期対策として事業は継続されるが、変更点などもあり周知徹底し、前期の教訓を生かした細かな対応をすべきである。

- ウ 堆肥生産センター施設の拡充については、補助事業メニューが事業仕分けの関係で、平成 23 年度以降の新規採択が凍結になっているため進まない状況にあり、引き続き 24 年度も補助事業や有利な施策を模索し検討している。

生ごみの対応については町全体への拡大が課題であり、環境課と協力しながらハ

ウス団地での堆肥利用も考慮に入れ検討すべきである。

エ 「ハウス団地構想」の具現化については、先進事例研修で秋田のハウス団地の視察を行い、そ菜、菌茸の優良事例を調査するなど実現に向けて取り組む方針である。

各JAと相談しながら進め、24年度前半策定予定の農林業再生戦略（仮称）に盛り込み、24年度中には具現化を目指している。

オ 水田活用の所得補償交付金の中の産地資金については、「花き」を重視し、重点振興作物助成を昨年度から実施している。

カ 野菜価格保証基準については、23年度から従来の市場価格の80%から85%に引き上げ改善している。

産業建設常任委員会調査報告書

1 調査事件

市街地の排水対策についての検証（平成 23 年 9 月定例会で報告）

2 調査目的

近年、地球環境の変化による温暖化が進み、予測が困難で突発的な局地的集中豪雨の発生が頻繁に見られるようになってきた。本町においても、平成 20 年 8 月、22 年 9 月に市街地や住宅地で、床下浸水や側溝が溢れるなどの被害が発生している。このような状況を改善するため、町では平成 20 年度に庄内町市街地排水対策調査を行い、その結果を踏まえて平成 21 年度から対策を行っているが、思うような効果が出ていない。そこで市街地の排水対策について調査を行い平成 23 年 9 月定例会に委員会報告を提出した。その中の 3 つの意見について実施状況を検証することとした。

3 調査経過

平成 24 年 3 月 16 日（会期中）
平成 24 年 3 月 28 日
平成 24 年 4 月 12 日
平成 24 年 4 月 17 日
平成 24 年 4 月 23 日
平成 24 年 5 月 8 日 担当課からの聞き取り
平成 24 年 5 月 22 日
平成 24 年 5 月 28 日
平成 24 年 5 月 31 日

4 検証結果

(1) 排水施設の整備・拡充について

[前回の意見]

ア 排水路

市街地の雨水排水対策は「都市下水道事業」「余目町公共下水道(雨水)基本計画」「庄内町市街地排水対策調査」に基づき取り組んではいるが、整備途中のため解決には至っていない。また、幹線の多くは最上川土地改良区の農業用水路・排水路に依存しているのが現状であり、最上川土地改良区の独自の計画もあることから関係者が一体となって、より効果的な排水路整備のあり方について再度協議すべきである。なお、和光町の水路については、側溝壁の嵩上げを早急に対応するとともに、設置後冠水被害が発生（平成 23 年 8 月 18 日）している茶屋町の既設排水ポンプについても、末流整備（平成 23 年度事業予定）後、再検証を行うべきである。

イ 排水機場

毒蛇排水路は最大通水量 16.83 m^3/s 、排水機場最大排水量 9.35 m^3/s 、排水機 3 台である。西野排水路は最大通水量 11.49 m^3/s 、排水機場最大排水量 4.45 m^3/s 、排水機 2 台である。双方とも通水量に対して排水能力が不足している。このため大

雨等による通水量が増大した場合、各排水機場の排水能力を超える通水量となることから、浸水被害につながっている。

国では平成 24 年度に完成予定の京田川引提事業（酒田市出羽大橋付近）に取り組んでおり、完成の折には西野排水機場での流下能力も改善される予定である。また、平成 37 年までに庄内町管内全体の排水系統の見直しが予定されており、町は最上川土地改良区との連携により各排水機場の能力向上策を早急に協議、検討するよう国に働きかけるとともに、毒蛇・西野排水機場については早め実施すべきである。

[検証の結果]

ア 排水路

各排水路については、浸水被害等が発生した場所を優先的に改修しており、高規格道路整備に伴う水路改修については、国土交通省が行う工事に合わせて実施する予定にしている。

国の主管事業である最上川下流左岸地区の排水施設整備計画については、平成 37 年度の完成を目標に進められており、この検討調査会が昨年度 2 回実施された。町では市街地排水対策が重要な課題であることを提起した上で、排水路整備にあたっては、市街地からの排水量も十分考慮すべきであること。また、計画の基準となる降水量については、気象庁データに拘らず、実際に冠水被害があった余目地区の最上川土地改良区雨量データを採用すべきであることを申し入れている。

和光町の水路の側壁嵩上げについては、今年度余目グラウンドの貯留施設について調査設計を行うことから、この結果を受けて検討することとしている。

茶屋町の既設排水ポンプについては、昨年度、吐き出し口となる水路を改修したが、その後排水ポンプを稼動するほどの降雨がなく未検証である。

イ 排水機場

排水機場については、最上川下流左岸地区の排水施設整備計画における検討調査会で、機能増強を要望していく予定である。

なお、現在、西野排水路、毒蛇排水路の流末では、流出先である河川が増水する度に、冠水の恐れ又は被害に見舞われる状況にあり、昨年 8 月 18 日の大雨の際は、西野排水路で集落への影響も懸念されたことから、国土交通省の排水ポンプ車による排水作業を行っている。

この作業が効果的であったことから、今年度町で同規模（毎分 30 t の排水能力）のポンプ車を購入する予定である。この排水ポンプ車の運用方法については、町が最上川土地改良区に貸与し、作業は最上川土地改良区から行ってもらう内容で協議している。

協議にあたっては、保管方法、流末における対応に止まらず、市街地での排水作業にも対応できるよう留意すべきである。

(2) 雨水流出の抑制対策について

[前回の意見]

ア 流出抑制計画

市街地排水対策においては雨水の流出を促進するだけでなく、貯留・浸透などの流出抑制策が効果的である。そのため、雨水流出抑制目標対策量を設定し、雨水貯留、地下浸透策を総合的浸水対策の一環と捉え、流出抑制施設を組み込んだ最上川、京田川への流出抑制計画の策定をすべきである。

イ 流出抑制施設

(ア) 表面貯留

市街地における浸水被害の軽減を図るためには、時間差を付けて雨水を放流し流末に負担をかけないことが効果的である。

表面貯留には掘込方式と周辺を嵩上げする築堤方式があるが、費用安価な築堤方式を取り入れ、余目グラウンドや余目中学校グラウンド、公園などの公共施設を雨水流出抑制対策として有効な表面貯留施設に改善すべきである。

(イ) 水田貯留

市街地では農業用水路・排水路が街中を通っており、市街地の排水機能はその用水路・排水路に負うところが多い。そのため市街地における浸水被害の軽減を図るためには、雨水の流入を抑制することと、時間差をつけて雨水を放流することが有効である。

水田が有する遊水機能に人工的に貯留効果を付加することで、洪水時における雨水の流入・流出抑制が図られ治水の有効な手段となることから、市街地の上流部、下流部の水田に雨水を溜めることで浸水被害を防ぐ大きな効果が期待できる。上流部の水田貯留は市街地の排水路の軽減に繋がり、排水機能が向上する。また、下流部の水田貯留は排水機場の負担軽減に繋がる。

水田貯留は整備単価・維持費が安く、市街地の周辺には水田が多くあり貯留量は膨大で広範囲の浸水対策が期待できることから、関係者との協議を進め実施すべきである

(ウ) 透水性舗装

市街地では地下水位が高いことから浸透策に疑問を持たれているが、雨水を地下水として地中に浸透させることで排水路などの負荷を軽減する効果が期待できる事例が多くある。ただし、道路では空隙がつぶれ機能低下が生じるため、今後歩道や公園の改良の際に透水性舗装を考慮すべきである。

(エ) 公共施設の雨水貯留

都市化が進むと雨水の浸透・保水機能が奪われ、河川や下水路への流入速度が早まり洪水が起きやすくなる。公共施設に雨水を貯留することで雨水の流出を抑制することができ、浸水被害の軽減に効果があると考えられる。さらに街中の身近な水源地として、また、災害時のライフポイントの小規模水源地として利用できる。今後、建設される公共施設においては、貯留水をトイレの流し水に活用するなど規模に応じた地下貯留施設の設置を検討すべきである。

(オ) 調整池

町の平成20年度「庄内町市街地排水対策調査」によれば調整池が検討されている。しかし、「市街地排水対策調査による工事費の試算」(資料として添付)によれば多額の費用が必要であり、費用対効果、安全管理の面からも総合的判

断のうえ、調整池の設置は慎重に検討すべきである。

[検証の結果]

ア 流出抑制計画

流出抑制計画については未策定であるが、排水対策については手法・規模等多様であることから、現在まで改修等を行ってきた状況や効果、財政的な面も踏まえ策定に向けて検討していく予定である。

イ 流出抑制施設

(ア) 表面貯留

表面貯留の設置場所としては、冠水常襲地でもある和光町地区に隣接している余目グラウンドや余目中学校グラウンドが適当であり、特に余目グラウンドについては、広大な面積であるうえ、支障物も特に無いことから候補として上がっている。ただし、改良が必要であること、また降雨の貯留に限定され増水する水路からの貯留はできない構造となることから、地下貯留の選択も含め、今年度、調査設計を実施する計画である。

(イ) 水田貯留

水田貯留については、新たな用地の確保は不用であり、また、改良等についても安価に整備することが可能であるが、視察地では水田所有者又は耕作者との協定手続きが煩雑であるという指摘もあったことから、これらもふまえてこれまで行ってきた排水路整備等による効果も検証しながら検討していく予定である。

県では平成24年度「田んぼダム」の実証を予算化し、検討会の開催、実証試験の複数箇所実施、普及啓発等を計画している。県と連携して対応すべきである。

(ウ) 透水性舗装

市街地において、公園・道路等の新規事業があまり見込めないことから、改修等の際に整備することを検討している。

(エ) 公共施設の雨水貯留

新規事業はあまり見込めない状況であり、関係機関の整備計画等も確認しながら新設・改修等に合わせた整備を検討している。

計画中の温泉施設に導入を検討すべきである。

(オ) 調整池

現時点では、改良可能な水路等の整備を先行して実施しており、調整池については多額の費用を要することから慎重に検討している。

(3) 町民の意識向上と浸水対策への参加促進について

[前回の意見]

ア 浸水対策における住民意識の高揚

現在浸水被害の解消や軽減についての考え方は、排水施設の排水能力の強化、流下速度の向上が主であるが、雨水貯留・浸透の考え方を取り入れないと根本的解決にはならない。また水路の維持管理も重要である。このことから、貯留・浸透の考

え方を町民に周知するとともに、地域での水路の維持管理が必要であり、町民の治水意識の高揚も含め制度の新設を図り広報で周知するなど、総合的な対策をすべきである。

イ 助成制度

視察地では既存浄化槽転用雨水貯留槽設置や雨水貯留タンク設置、雨水浸透枳設置などの雨水流出抑制事業に対して補助制度を実施している。このことが住民の浸水対策への参加を促し普及を進めるとともに、住民の治水意識を醸成している。雨水流出抑制策を推進し浸水対策に対する住民意識の高揚を図るため、制度の導入を具体的に検討すべきである。

ウ 雨水利用

屋根からの雨水を溜める雨水タンク利用は家庭での雨水貯留が可能であり、庭木の散水への利用もでき、雨水流出抑制になる。一般家庭への雨水貯留タンク、既存浄化槽転用雨水貯留槽の設置など、雨水活用を推進すべきである。

[検証の結果]

ア 浸水対策における住民意識の高揚

町民に対する水路の維持管理の重要性や貯留・浸透の考え方を含めた治水意識の高揚については取り組んでいない状況であり、また、制度化についても検討には踏み込んでいない状況である。今後、他市町村の取り組みも参考に、また関係課と連絡を取りながら、町民への周知による意識高揚に向けた取り組みについて検討していく予定である。

イ 助成制度

助成制度については多くの市町村で実施している。しかし、視察地では各家庭等における利用実態が明確に検証できないという課題があり、町では助成制度について慎重に対応している。

ウ 雨水利用

家庭で設置可能な雨水タンクの利用は、雨水流出抑制となるだけでなく、節水意識の高揚に繋がる取り組みであるが、利用推進に向けた周知等には至っていない。今後、検討していく予定である。